



一  
解  
言

い  
一  
丁  
は  
十  
六  
丁  
に  
廿  
四  
丁  
ほ  
廿  
五  
丁  
へ  
廿  
七  
丁  
と  
廿  
八  
丁

ホ 2  
4434  
1



行  
1/20

新本三才圖會

# 釋言

三冊

鈴木氏新板



夫此の二枚は、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、  
六十一、  
六十二、  
六十三、  
六十四、  
六十五、  
六十六、  
六十七、  
六十八、  
六十九、  
七十、  
七十一、  
七十二、  
七十三、  
七十四、  
七十五、  
七十六、  
七十七、  
七十八、  
七十九、  
八十、  
八十一、  
八十二、  
八十三、  
八十四、  
八十五、  
八十六、  
八十七、  
八十八、  
八十九、  
九十、  
九十一、  
九十二、  
九十三、  
九十四、  
九十五、  
九十六、  
九十七、  
九十八、  
九十九、  
百、  
百一、  
百二、  
百三、  
百四、  
百五、  
百六、  
百七、  
百八、  
百九、  
百十、  
百十一、  
百十二、  
百十三、  
百十四、  
百十五、  
百十六、  
百十七、  
百十八、  
百十九、  
百二十、  
百二十一、  
百二十二、  
百二十三、  
百二十四、  
百二十五、  
百二十六、  
百二十七、  
百二十八、  
百二十九、  
百三十、  
百三十一、  
百三十二、  
百三十三、  
百三十四、  
百三十五、  
百三十六、  
百三十七、  
百三十八、  
百三十九、  
百四十、  
百四十一、  
百四十二、  
百四十三、  
百四十四、  
百四十五、  
百四十六、  
百四十七、  
百四十八、  
百四十九、  
百五十、  
百五十一、  
百五十二、  
百五十三、  
百五十四、  
百五十五、  
百五十六、  
百五十七、  
百五十八、  
百五十九、  
百六十、  
百六十一、  
百六十二、  
百六十三、  
百六十四、  
百六十五、  
百六十六、  
百六十七、  
百六十八、  
百六十九、  
百七十、  
百七十一、  
百七十二、  
百七十三、  
百七十四、  
百七十五、  
百七十六、  
百七十七、  
百七十八、  
百七十九、  
百八十、  
百八十一、  
百八十二、  
百八十三、  
百八十四、  
百八十五、  
百八十六、  
百八十七、  
百八十八、  
百八十九、  
百九十、  
百九十一、  
百九十二、  
百九十三、  
百九十四、  
百九十五、  
百九十六、  
百九十七、  
百九十八、  
百九十九、  
百十、

序











もよほしうゑとて後篇もよほしうゑとて思ふはまは

明治十二年三月

鈴木重嶺藏

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

### 雅言解凡例

一此書中<sup>フミナカニサシ</sup>世乃詞をむむとて、中よ美林集の歌をよ加へ  
 くらむ、今のまよふちらぬておつり、かぬ耳とふたて、たふ  
 とあるは古きをよ、続篇より、いふて、思ふたあり  
 一解<sup>トキナ</sup>ハ初学よ、解、やまきを、とて、ね、凡東京の俗言を  
 ぞとて、解、し、し、あ、ぬ、ま、あ、ぬ、俗言を、て、い、り、て、誤、の、と  
 づ、あ、ら、あ、ら、あ、ら、又、解、の、誤、れ、も、有、ら、れ、ど、誤、り、の、  
 くら、い、ん、ば、自、ら、解、得、し、も、あ、ら、ぬ、



一 冠ミクラも今の歌に用ひて耳をきくぬは古きをかして  
 今までのまゝ出さうと云ふ所の業久望しむとてその歌の  
 かぎりとはじめ終と其まじりきをきかぬ故うぐく出さ  
 其まじりをくひこひ冠を考又續貂よりぬきいで程か  
 たもあり但初めのまじりきと云ふは吹風の目もぬく  
 浮舟のちがひてたゞの歌はのどくしてやまゝ冠辭は  
 あらびやうと序歌とあはけらるるも續貂はかへ多程を  
 出れらるゝとあり

一言葉のついでハ五十音をまて次ツイづべれどさへは撰りもむ  
 るは便りもつゝねだはれし〜アデマキ後編のいづりも列々伊呂波  
 仮字の次ツイ次イデをももらぬとあり

一 良利留禮名ハ初言ハ居くつきことばを〜たゞ有ハらふ  
流流疎疎瑠瑠璃璃の歌字もあはれ〜あキ為キもことばはまじ  
昧昧行行嚴嚴禮禮のやみあはれ〜あキ為キもことばはまじ  
 出さばまじりぬればはぶたぬ

一 萬葉集以下撰集其外の歌集ともハ古今集ハ古新古今





いとほし

いとほしむ

○イトシ

○カハニサウ

○イトシクオモフ

いとふく

○イトマナク

○イツガシク

○ヒマガナク

いとすまき

○幼年ヲ云

いとすまき

いとほし

いとほしむ

いとふく

いとまなく

いとがしく

いとまなく

いとまなく

いとたけ

○管絃ヲ云

いとあ

○軒ノイト水ハ雨堂ニ

亦ノキノ五水トモ云

ヘリ

いちじろく

○ハツキリ

○シカト

○灼然ノ字ニアタル明

カナル意

いちとやき

○スレドシ

○ハゲシイ

○一早シノ意ニヨメル

いとけまき

○幼年ヲ云

いとたけ

いとあ

いとたけ

いとたけ

いとたけ

いとたけ

いとたけ

いとたけ

いとたけ





いよく  
○俗ニ同ジ  
○イヤマシニ

いよだつ  
○身ノ毛ノタツヲ云、今  
俗ニ身ノ毛ヨダツト  
云是也

いやす  
いやすぐれ  
○伊豫ヨリ出ル簾ナリ、  
マドホニアメル簾ヲ  
云

いづつき  
○煩勞ノ我

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

いたる  
○到ナリ、ニキワタル意

いんまく  
○戴ナリ、俗ニ同ジ、頭上  
ニサ、グル意

いぬた  
○頭上ナリ

いよく  
○ハナハダ  
○キツウ

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

あゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつきあゝいづつき

いづら  
ムザ  
ムダ

いたづら  
○死スルヲ云、伊勢物語ニコニイタツラニナリニケリトアリ、則死ヌコ

いづらよし  
○恋ノ詞ニテ、実事ナクムナシク寐レヲ云

いづらいね  
○前ニ同ジ、稍ニカケテ

わづらひのちかぢきあはれ  
かばらひのちかぢきあはれ  
かばらひのちかぢきあはれ

むむのちかぢきあはれ  
むむのちかぢきあはれ  
むむのちかぢきあはれ

いづらひのちかぢきあはれ  
いづらひのちかぢきあはれ  
いづらひのちかぢきあはれ

あきの田けうらまゝあはれ  
あきの田けうらまゝあはれ  
あきの田けうらまゝあはれ

云いたづら指ハヒツ  
ダヲ云ナラフニ  
○穉和名、豆、知、黄、地、稻、格、格

いづらね  
○前ニ同ジ、獨寐スルナリ

いたま  
○屋ノフキ板ノヒマアルヲ云

いたぶき  
○板ニテフキシ屋根ナリ

わづらひのちかぢきあはれ  
わづらひのちかぢきあはれ  
わづらひのちかぢきあはれ

むむのちかぢきあはれ  
むむのちかぢきあはれ  
むむのちかぢきあはれ

いづらひのちかぢきあはれ  
いづらひのちかぢきあはれ  
いづらひのちかぢきあはれ

あきの田けうらまゝあはれ  
あきの田けうらまゝあはれ  
あきの田けうらまゝあはれ



いふふね  
○カリソメニ造リタル  
田舟ナリ

いれひも  
○養東ノ時左右ヨリ結  
ビアハスト云説アレ  
ド雌紐(メヒモ)へ雄紐  
(ヲヒモ)ヲ入ル、ト云  
説ヨロシ

いそ茶  
○真淵云、磯ニオッルワ  
カメ(和布)ヲ云ナルバ  
シ

いっ  
○俗ニ同ジ

夫  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

右  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

左  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

はか  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

いっしう  
○イツノマニカ

いっしう

○イツカ早カト云意ニ  
元額ヲフクメリ、前ニ  
云ヘルイツノマニカ  
ノ意ニヨメルハ後ナ  
リ、古クハ未然ニ云フ  
コトバシ

いっより  
○イツ頃ヨリノ意

いっふく  
○イツト限リモナク

秋  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

右  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

左  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

はか  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

水  
あまのほろむわたりたふらあつらう  
かたのたかたかた

○イツト云定リモナク

いづぢや

○俗ニオナシ文ニハ多  
ケレド歌ニハ少シ

いつのまに

○俗ニ同ジ

いづも

○俗ニ同ジ

いづく

○何所ヲ訓ム

○ドコ

○ドナラ

あはれなる月夜にちかばしのつらさなるやなれぬ

いづもちのほろろ月をさすかきや秋ハさき

いつのまに月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづも月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづも月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづも月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづこ

○イヅクニ同ジ

○宜長云奈良ノ朝マダ  
ハイヅクトイヒテイ  
ヅコト云ヘルイナシ

いづれ

○ドナラ

○何孰時又孰与ヲモ訓  
メリ

いづら

○ドコニ

○ドコガヤヅ

いねがて  
○寐難キナリ

いづこ月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづれ月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづら月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづら月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづら月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる

いづら月をさすかきしのちかばしきくしつらさなる









いでまし  
○行幸ヲ云

いでゆ  
○温泉ノナリ

いさ  
○不知ヲイサトヨム  
イサハシラズノ意ナリ  
スミテヨムベシ

いざ  
○ドリヤトヨビカナル

すゝのえれ岩のねむしまわつてわが大きみのいでまし  
すゝろぎのりごきくはるよわきのよた杭さる月をへる

つぎををびちひよちみぎをさるるれちあくらのいで湯をらん  
るるづりまはまをさるの林をさるるかこのいでゆをさる

人いりさるるもさるるにむさむしれきよめぬひん  
いぬののまの山をさるるやりのさるるさるるさるる

人いりさるるねをさるるさるるさるるさるるさるる  
おれさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

コトバ

いさ、地  
○チツトノマ

○カリツメ

いさ、  
いさ、  
○イサ、カ  
○サ、ヤカ

○目サトキナリ、イザト  
キ、イザトシトモハタ  
ラク、

○スナゴ、マサゴニ同ジ

後 甲の井へ入るるゆりゆりさるるさるる法よにやま掃て森

すゝ本柱つゝさるるさるるさるるさるるさるるさるる

いさ、いさ、いさ、いさ、いさ、いさ、いさ、いさ、いさ、いさ、

おれさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

おれさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

おれさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

いさよふ  
○猶豫ノ意ナリヤスラ  
フニ同シ

いざふ  
○サツフナリ

いざ  
○スナドリヲ云フナリ  
モ同シ

いきのむ  
○息ノ緒ニテ命ヲ云ナ  
リ

武士のやうち川のけりあはれいさよふはつゆへんあはれいさよふ  
君やさんやゆゆのいさよふはつゆへんあはれいさよふ  
いさよふはつゆへんあはれいさよふ

萬人のあはれいさよふはつゆへんあはれいさよふ  
かきあはれいさよふはつゆへんあはれいさよふ

いきのむはつゆへんあはれいさよふ  
かきあはれいさよふはつゆへんあはれいさよふ

いきうし  
○行クノガツライイタ  
ニク通フナリ

いひ  
○穢和名也  
淮南子ニ云決塘怒穢  
今云伏樋ノ類ト聞ニ  
言ニカケテヨメリ

いひあらぬ  
○イフニイハレヌ  
○イハフヤウモナキ

いひあはす  
○俗ニ同

人やりのききあはれいさよふはつゆへんあはれいさよふ

池のけりあはれいさよふはつゆへんあはれいさよふ

いけをさういさよふはつゆへんあはれいさよふ

あけぬいさよふはつゆへんあはれいさよふ

あけぬいさよふはつゆへんあはれいさよふ

あけぬいさよふはつゆへんあはれいさよふ





○ 葉ヲワケテ見ユルヲ  
ニモ葉ノアハヒト云  
ホドノ意ニモ云ヘリ。

○ ハカハ限リニイヅコ  
ヲハカハイヅコヲ限  
リニテアト、云ホド  
ノ意ナリ。蓋ヲハカト  
云フモ此義ニ出ツ。

○ 夢幻ノゴトクカリソ  
ヲナルヲ云。死ヌルヲ  
モハカナクナリニケ  
リナド云。又チヨツト  
ノ間トイフホドノ  
ニモナルナリ。

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

○ 前ニ同シ

○ 羽交ナリハネヲウチ  
、ガフヲ云。

○ ノミニ通フ

○ ハドニ通フ

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

あはれさし老をさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
みきてハ一あはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを  
あひの休のあはれをさるる玉子のあはれをけしげあはれを

また

○マタノ意トシハマタニマタト説クハチヨツト聞ユル様ナレドサエアラズマタハユルヤカエシテハタハ急ナリハメシテノ意ナリト加茂翁ノ言ハレタル凡ッ當レリト覺ニ

またれ

○マダラナル業平朝臣ノ歌ニ度ノ子マダラトモヨメリ

○今法ホノ名ナリ

○下賤夏日葉ヲ摘ミ貯ヘ置テ榲トス餘國ハ

子  
まのいれあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

古  
けをちうくもきけはらちきあへぬさだすぬきせしむけ

古  
かゝなきてかろひさすまふありけあひあひむらん

古  
あひ出さあきふらふ山あはれかかれやうらそれちうり

ナリト加茂翁ノ言ハレタル凡ッ當レリト覺ニ

わづらひあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

わづらひあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

わづらひあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

わづらひあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

わづらひあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

知ラズ佐渡ニ多クアリ

○僅カナリスコシバカリニ同ジ

また

○マハル意ツクル意ニ同ジ此歌ニテハ舟ノ行着キタルヲ云

また

○ホツル

○羽ヅカヒヲ習ハスニ

木うらわてき目まらひあそびうりやうも枕をかひあきたん名をきかれ

は

十八

○ 羽ヲ振フナリ

○ 花の華

○ ハナダイロハ縹色ナ  
リ月草ノ異名ヲ花田  
ト云月草ヲモテ深  
ル故ニ云ヘリ其色ノ  
ウツロヒヤスキヨリ  
中絶ユルコニタトス

○ 花ヲツミイル、蘿ナ

○ カタミ古言カタマ  
ナリ

○ 葉向ケナリ風ガ葉ヲ

ムケルン

万葉集の... 花の華... 羽を振る...

花の華... 花田... 縹色...

花の華... 花田... 縹色...

花の華... 花田... 縹色...

花の華... 花田... 縹色...

花の華... 花田... 縹色...

○ 今庭ヲハクナド云

○ 今庭ヲハクナド云  
ハクニ同ジ掃除スルナ  
リ万葉ニ掃モミシヤ  
ヌチモハカジト云歌  
アリ

○ 羽會ノ義ナリ鳥ノ卵

○ 羽會ノ義ナリ鳥ノ卵  
ヲ抱キカヘシ育ツル  
ヨリ云ヘリトゾ

○ ハヤク

Handwritten text in vertical columns, including characters like 旅人, 花, 羽, 庭, 掃, 月, 草, 花田, 縹, 色, 花の華, 花田, 縹色, 羽を振る, 今庭, 掃除, 掃, 月, 草, 花田, 縹, 色, 花の華, 花田, 縹色, 羽を振る.

モハヤ

風のつらき... 枝もさやせ... 秋もきこたり

モヤ

ドウゾハヤクト額ア  
意ナリ

いざよひ... 大さや... 秋のあけ

モヤ

秋のあけ... 月のおく

モヤク  
普通ノ早クナリ

石は... 秋のあけ

モヤク  
前カタヨリナリ

古... 秋のあけ

モヤナガラ  
前カタ着キ時ノ身合  
デ

山川の... 秋のあけ

モヤ  
前カタノ事  
暴風和名八夜知ニハ

波... 秋のあけ

カニ起ル瓜ナリ今ハヤテト云ヘリ。

○ 舟和名波夜布祓

大島ふらふらとてびりてやめのはやちんよあひこくがね  
夫 ーさやばやまのいそとやめのあまむげーていひわらこね

○ 濱木綿ハ濱オモトト云モノナリトゾ

さかまけの浦のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり  
さかまけの浦のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり

○ 伊勢ニオフル萩ナリ

神尾の伊勢のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり  
よさの浦よ一むらむらとてはははははははははははははははは

○ 楸和名比佐木濱ヒサ

はははははははははははははははははははははははははははは

シトヨメルハ誤ナリ

わがまははははははははははははははははははははははははははは

○ ステモノニセマイ

さかまけの浦のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり

○ モトハフルト云コトバニ出ツハフルハ落アル

さかまけの浦のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり

○ 羽ヲ振ルナリ万葉ニ

さかまけの浦のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり

○ 萩射山ナリ莊子ニ

さかまけの浦のたまゆふのくちりくちりくちりくちりくちり

ててぐ  
トッソツマリ

せゆ  
生山ノ意ナリ

せゆ  
映マタ榮ヲヨム。○俗  
ニハエルト云。

せゆ  
ハヤウマヲ約メテ、  
ユマト云。ハユマヂハ  
駄路ナリ。

世中をかくしひく

万長 ち橋よりひきをく川原よりひきをけゆる上下界

あゆ

冷 いりりんたくれあぬのまをさして山

夫 男山かぎのむしをさすをさすのむしをさす

万 たゆもさうりゆめ

何 さうもさうりゆめ

たし  
○ハシハ端ニ此歌エテ  
何トモツカズ用ヲ  
為サヌモノト云フ意

せし  
前ニ同

せし  
○真淵云。火ノ外ハハネ  
トブラ云ナリ。枕草帝  
ニ。サワガシキモノ。ハ  
シリ火トアリ。  
○遊艇和名渡之布稱小  
舟ヲ云。

くひり  
○ハヒイリナリ。ヒイリ  
約ヒナリ。入ロヲ云。

古 おるあびさるりぬれ

後 りぬれ

古 人あさんつき

宜長云つきのおまきは

後 むやひさ

後 姉あのをひ















ウチト云

○ 常にナリ

とばかり

○ チトノマ  
○ 文ニハ多カレド歌ニ  
ハマレナリ

とばかり

○ 云々トバカリヲト云  
フコトバヲ切リタル  
ノミ前ノ意ト混ズマ  
カラズ

山さしつとれさるるをの首代ふいとすまのさつぬりをさうき  
神路山うちこのまの夕かりついでをかけあひいれん

ほろくふれさるるに思ふべしつらうのさつぬりをさうき  
伊物 けつがとりよほろくさるるやわがさるるのかわり

後於 たがさるるあけはやあらん秋のさつぬりをさうき  
杖のさつぬりをさうき

ほろくさるるあひさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを  
いづらうの夜つねにぬれさるるをさるるをさるるをさるるを

とばかり

○ 阿ハレモセマニ言世  
ルナリ

とごり

○ 幌名止波利  
○ 唐韻云幌惟慢也

とばかり

とばかり

○ ドウセサトカウセサ

○ ドウデモカウデモ

とばかり

○ 遠山ノ形ヲ摺リシナ  
リ

つとれさるるあひさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを  
ほろくさるるあひさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを

ほろくさるるあひさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを  
いづらうの夜つねにぬれさるるをさるるをさるるをさるるを

ほろくさるるあひさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを  
いづらうの夜つねにぬれさるるをさるるをさるるをさるるを

ほろくさるるあひさるるをさるるをさるるをさるるをさるるを  
いづらうの夜つねにぬれさるるをさるるをさるるをさるるを

とちぢ  
〇 権依名度無良  
孫安曰門戸之極也ト  
アリ、中世メ、戸トイ  
フニヨメル

とちぢ  
〇 十分ノ意

とちぢ  
〇 ナリヒツク形容ニ云

とちぢ  
〇 ナリヒツカスナリ

とちぢ  
〇 十分ノ意

とちぢ  
〇 ナリヒツク形容ニ云

とちぢ  
〇 ナリヒツカスナリ

とちぢ  
〇 ナリヒツク形容ニ云

とちぢ  
〇 ナリヒツカスナリ

とちぢ  
〇 滞ナリ、歌ニハ水ニカ  
ケテヨメル多シ

とちぢ  
〇 ラハリ  
〇 シマヒ

とちぢ  
〇 タノミ  
〇 トリヒ

とちぢ  
〇 俗ニ同シ

とちぢ  
〇 滞ナリ、歌ニハ水ニカ  
ケテヨメル多シ

とちぢ  
〇 ラハリ  
〇 シマヒ

とちぢ  
〇 タノミ  
〇 トリヒ

とちぢ  
〇 俗ニ同シ

とりあはず  
○イウヨセヌ  
○スグサマ

とりもあはず  
○前ニ同ジ

とりあはず、  
○垂シカケルナリ古事  
記ニ垂ヲ訓テ志願ト  
云宜長云シテハ志願  
礼ノ約ナリ。

とぞ  
○タワニニ同ジタワム  
ナリ。

つねにまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ  
まはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

はるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

神は  
樹ニまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

神は  
樹ニまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

神は  
樹ニまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

とわたる  
○真覧ニ疾波ルノ意  
トアレド受ガタシト  
ハ發語ナルマシ

とあへる  
○頭昭ノ説ニハモノカ  
ハルヲ云トアレドイ  
カハ或説ニ驚ハ必果  
立セシ山ニ冬歸ルト

とあへるの巻  
○松ハ百年ニ一度花サ  
クヨシソレヲ十カヘ  
リノ花ト云トゾ

とよみ  
とよしす  
○ナリヒバク  
○ナキサワゲ

わがしはあまのあまの川にまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

けしはあまのあまの川にまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

あまのあまの川にまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

あまのあまの川にまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

あまのあまの川にまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ

あまのあまの川にまはるるにみづかきぬまのなまふりあはせむとあむりあふ







○常盤堅磐ナリイツモ  
変ラズ勤カヌノ意

○ミトメ(器)ナル又モト  
メ(葉)ノ上畧トモナレ  
リ

○毎年年ナリ

○年ハ限リナク長キモ  
ノナレバ緒ノ長キニ  
タトヘタリ年尾ノ意

万代をまらりのまらりのまらりまらり  
かきまらり

古  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

古  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

万  
年のまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

古  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

古  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

ニヨメルハ非ナリ

○ドウセウカウセウ  
○ドウデモカウデモ

○多ヲヨハ少キニ同シ

○ウラヤマシト云意ヨ  
ロンキトニモイハリ  
中世ブリニハイカバ

○タガヒニスレアフラ  
云

後  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

万  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

月  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

万  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

夫  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり

夫  
まらりまらりまらりまらり  
まらりまらりまらりまらり



Blank page with a faint vertical crease on the left side.

Blank page with a large rectangular border. Faint, illegible text is visible within the border, possibly bleed-through from the reverse side. The text is arranged in several columns and is mostly illegible due to fading.

